

令和7年度

ウッドシティ TOKYO 建築賞 モデル

受賞作品集

令和7年度
**ウッドシティ
 TOKYO**
 モデル
建築賞

概要

東京都では、木材の大消費地・東京において、新たな木材需要を喚起することで、多摩地域をはじめ全国の森林循環を促進し、林業・木材産業の成長を図るため、木材利用の新たな可能性を開拓する革新的・モデル的な建築物又は木質空間を表彰する「ウッドシティTOKYOモデル建築賞」を実施しております。

審査における着眼点

- ・国産材の特徴や良さを活かし、有効活用しているもの
- ・先進的な木材利用の普及に寄与するもの
- ・都市部における建築物の木造化、木質化の波及に寄与するもの
- ・建築物又は木質空間として優れたデザインであるもの
- ・建築等の過程において女性が活躍したもの（女性活躍賞のみの着眼点）
- ・都市部におけるオフィスの木質化の波及に寄与するもの（オフィス木質化賞のみの着眼点）

応募対象

- ・東京都内に所在すること。
- ・公開可能な非住宅の施設であること。
- ・構造材や内装材などの全部又は主要な部分に国産材を使用していること。
- ・直近5年以内（令和2年4月1日から募集開始の前日まで）に竣工した木造及び混構造建築物、又は直近5年以内に木質化した空間であること。
- ・建築基準法等各関係法令を遵守していること。
- ・同一の建築コンクール等において、知事賞や大臣賞の受賞歴がないこと。

審査経過

作品募集：令和7年7月28日から
 令和7年9月26日まで

審査：令和7年12月12日

表彰式：令和8年2月12日

表彰

- ◆ 東京都知事賞 ◆ 産業労働局長賞 ◆
- 最優秀賞：1点 奨励賞：6点
- 女性活躍賞：1点
- オフィス木質化賞：1点

審査委員（五十音順）

- ・杉山和佳子氏
 一般社団法人日本インテリアコーディネーター協会 副会長
- ・多幾山法子氏
 東京都立大学大学院都市環境科学研究科建築学域 准教授
- ・原田真宏氏
 株式会社マウントフジアーキテクトスタジオ 一級建築士事務所
 主宰建築家
 芝浦工業大学建築学部建築学科 教授

- ・古谷誠章氏
 早稲田大学 名誉フェロー
- ・東京都産業労働局農林水産部長

受賞作品 目次

最優秀賞（東京都知事賞）

01 | 武蔵五日市駅前拠点施設
 「フレア五日市」 P.3

女性活躍賞（東京都知事賞）

奨励賞（東京都産業労働局長賞）

02 | 第一生命京橋キノテラス P.5

オフィス木質化賞（東京都知事賞）

奨励賞（東京都産業労働局長賞）

03 | EBINAXCITE P.7

奨励賞（東京都産業労働局長賞）

04 | OS melia P.9

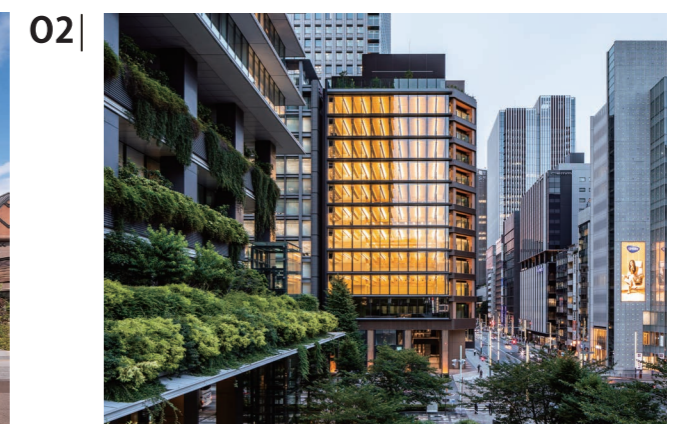
05 | 国際基督教大学
 トロイヤー記念アーツ・サイエンス館 P.11

06 | 品川区立第四日野小学校 P.13

07 | Kahvi Coffee P.15



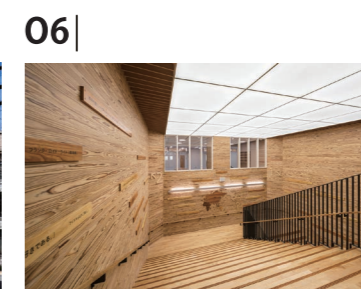
©ヴィブラフォト 浅田美浩



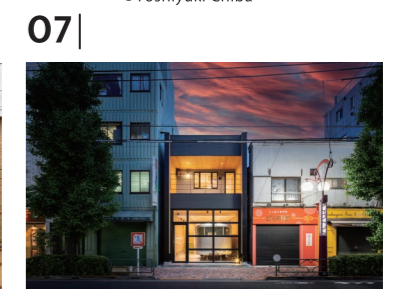
©Yoshiyuki Chiba



©川澄・小林研二写真事務所



©川澄・小林研二写真事務所



©KEN TAKAYANAGI

※受賞作品掲載の図面の縮尺について
 一部の図面中にある縮尺表記は受賞者から提供された図面原本によるものです。図面原本を本誌のサイズに合わせて縮小などをおこなっているため、紙面上の縮尺は正確ではありません。



駅前広場から見た全景。自由に使える外のひろばと、張り出した大屋根が人々をいざなう。
©ヴィブラフォト 浅田美浩

01 | 最優秀賞

武蔵五日市駅前拠点施設「フレア五日市」

受賞者 施主：あきる野市 / 設計者：株式会社アルセッド建築研究所 / 施工者：株式会社来住野工務店

東京の木で、東京の地元工務店が、東京の駅前につくる、人々の集いの場

あきる野市の武蔵五日市駅前に東京の木・多摩産材を活用し、地元工務店が建設した木造拠点施設。地域の人々が気軽に立ち寄り、イベントや集会など様々な活動を行い、秋川流域を訪れる人々の基地となり、観光やイベント・移住等の情報を発信するなど、多様な人々の自由な活動が展開する場である。それらの活動が互いに空気感を共有しながら、中のひろばから五日市ラウンジ、半屋外の大屋根から外のひろば、そして駅前広場まであふれ出していく場を、木の架構で包んだ。



中のひろばから大屋根越しに駅前広場を見る。架構の連続と視線のやりとりが内外を結びつける。木架構は遠景の山並みに呼応する。

エントランスから「五日市ラウンジ」に入ると正面に天竺山が迎え、行きかう人々が様々な地域の情報に触れる。

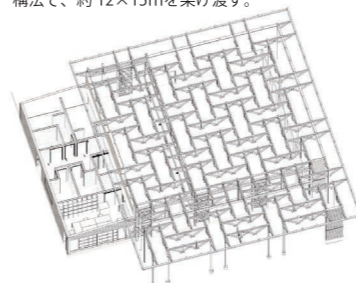
大屋根の軒下空間は軒先まで約7mあり、中のひろばと外のひろばから駅前広場までを結びつける中間領域となる。

多摩産材と地元工務店でつくる中大規模木造

木材は、多摩産材を全体の約90%で活用した。生産量が少なく小断面の4m材が主な多摩産材を、材工一括発注でありながら構造材にも活用するため、大スパンを120角の4m材のみで支えるレシプロカル構造を採用、住宅用の部材で高耐久性な格子耐力壁をつくるなど、市場のストックが使える計画とした。また、構成単位を小さくすると共に接合部を一般的な既製品と木組みとし、大工を抱える地元の工務店による施工が可能な計画とした。

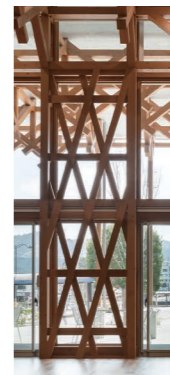
W型トラスによるレシプロカル構造

多摩産材のストックが入手できる120角の4m材と、既製品の梁受金物による汎用性の高い構造で、約12×15mを架け渡す。



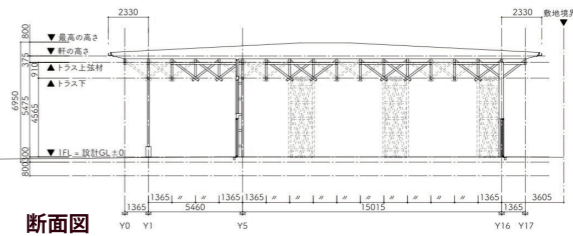
斜め格子耐力壁

筋かいと貫を組み合わせた汎用性の高い構成で、壁倍率換算7.4倍を実現。高耐久と透過性を両立させ、遠くからも内部の活動の様子が良く見えるファサードを実現。



内外で連続する木造架構

X,Y二方向に均質に展開するレシプロカル構造が中のひろば、五日市ラウンジ、大屋根を一体的に多い、また内外の連続性を生み出す。



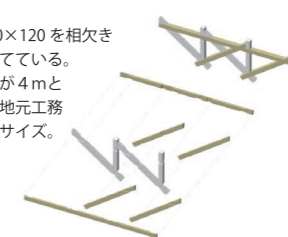
断面図

屋根架構の建方



W型トラス

120角と半割の60×120を相欠きで嵌合せ組み立てている。トラス一つの長さが4mと取り回しやすく、地元工務店が施工しやすいサイズ。



多摩産材の使用率 90% 以上

	構造材・羽柄材	
多摩産材	140.85 m ²	93.7%
国産材	9.15 m ²	6.1%
外材	0.33 m ²	0.2%
計	150.34 m ²	100.0%

連なる木造架構の下で、様々な人々の自由な活動につながる場



- ①大屋根の下：イベント時の様子。大きな半屋外が人のたまり場・活動の場となる。
- ②外のひろば：働く自動車展の様子。キッチンカー等の様々なイベントに対応する設えを備える。
- ③中のひろば：地元有志のバンドによるコンサートの様子。
- ④五日市ラウンジ：気軽に誰でも入れる休憩スペース。観光情報、移住情報などを提供する。

愛着を育み、次世代につなげるプロセス

末永く活用されるために、地域に根づくプロセスとして以下のワークショップを実施した。



- ①着工前の敷地で、地域の人々や市外からの人々を対象とした使い方ワークショップ。
- ②オープニングイベントで、地域の草木等を植えるワークショップ。
- ③竣工後、地元小学校の全校児童によるベンチ用材の柿渋塗りワークショップ。
- ④地元小学生に、木造、地域の木、地域の工務店、建物についてレクチャー。

受賞概要・講評

武蔵五日市駅前の木造拠点施設。市場ストックの多い一般流通材を主体とする構造を採用し、地元工務店が施工可能な計画とした。また、生産量が少ない東京の木多摩産材を、全体の9割以上で活用している。

本作品は、「多摩産材の生産が盛んな武蔵五日市駅前という立地で、多摩産材を大量に使用した象徴的な建築物である点」「一般流通材を使用して大スパンを実現した点」「地域材を用いて、地元の工務店で施工可能なモデルを構築している点」等が評価された。



東京駅に近く、再開発に挟まれた京橋交差点に建つ。3~12階にテラスを2か所設け、テナント入居者の専有部とした。南側コーナー部のテラスは、角を切った平面図形状とし、木柱・木梁で構成した。本建築を含め、交差点の4角に建つ建物は、第一生命グループが所有している。(一部共有を含む)

02 | 女性活躍賞ならびに奨励賞

第一生命京橋キノテラス

受賞者

女性
活躍賞

清水建設株式会社 武田 典佳
清水建設株式会社 松井 茉優
清水建設株式会社 増田 奈保子
清水建設株式会社 藤本 布由子

奨励賞

施主：第一生命保険株式会社
設計者：清水建設株式会社
施工者：清水建設・日本建設共同企業体

中高層建築への木質技術の積極的な導入は、都市の脱炭素化を加速させ、持続可能な社会の実現に不可欠な意義を持つが、本プロジェクトは、単なる環境負荷の低減に留まらず、都市景観に温かみと生命力を与え、人々の暮らしや働き方に新たな価値をもたらすことへの挑戦でもある。



前面道路である中央通り側に設けられたエレベーターホール。対角には相互館 110タワーが建つ。

基準階南側テラスより東京スクエアガーデンの緑景を見る。柱及び梁にはスリム耐火ウッドを採用。



テナント専有部より、銀座側を見る。南北に視線が抜ける敷地を生かし、東側にコアを分割。オフィステナント部分は、無柱空間（天井高さ3,200~3,800mm）とした。



専有部出入口部を見る。CLT耐震壁を背に、ベンチを設けた。ベンチの下部の木蛇籠には、専有部に用いたCLTの端材を用いた。



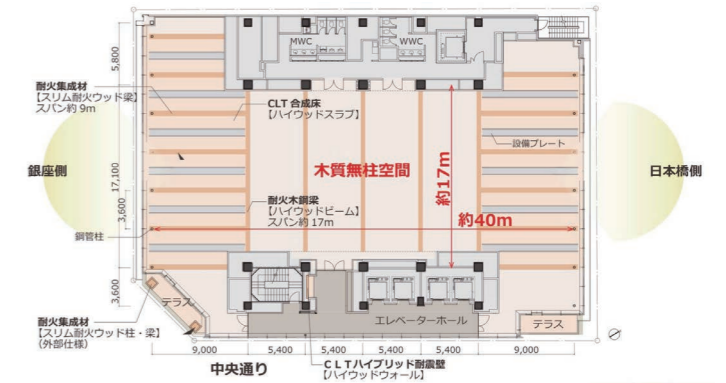
風の通り抜けるオフィスエントランスへの導入部分。スクエアガーデン、エドグランの緑を借景し心地よい空間からエレベーターホールへと向かう。



多摩産材を用いた、折上げ天井により、木のぬくもりを演出したオフィスエントランス。圧縮力を木材、引張力を鋼材で負担したCLT/ハイブリッド耐震壁を配置。

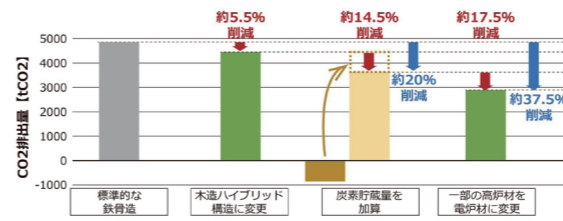
1. 木造によるウェルビーイングな執務空間

- ・京橋交差点という立地条件を活かし、都心で働く施設利用者や歩行者に木の生み出す心地よい場を提供
- ・日本橋側・銀座側に開く構成により、開放性を高めた基準階計画（東京スクエアガーデンのオープンスペースを緑景とした作り）
- ・都心の中心にありながら、周囲の豊かな緑景や空、季節の移ろいや風を余すところなく享受できる執務室
- ・各階にテラスを設置し、外気に触れられる環境づくり
- ・前面道路である中央通り側に配し、外部環境が望める共用部



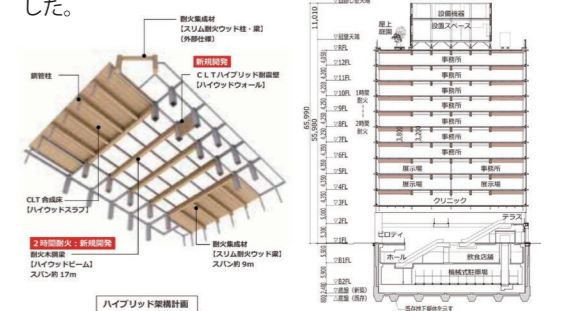
2. 木造+鉄骨造のハイブリッド構造による持続可能な先進オフィス

- ・オフィスビルとして国内最大級となる木材使用量（約1,100 m³）により、約740トンのCO₂固定化を実現
- ・多摩産材を中心とした国産の木材（カラマツ・スギ）を活用（東京都（多摩産材）/北海道/長野県/奈良県/岡山県/高知県/熊本県）
- ・木造ハイブリッド構造の採用及び電炉材の活用により、同規模の鉄骨造オフィスビルと比べ、建設時のCO₂排出量を約37.5%削減



3. 構造合理性と空間の質の両立を追求

- ・基準階（3~12階）では、鉄骨造のブレース付きラーメン構造による耐震コアを2箇所に分散配置することで、水平剛性および捻れ剛性を確保し、すべての水平力を負担する。これにより、外周架構を地震力から解放し、執務空間に面する部分には細い鋼管柱（214~244φ）を採用し、窓廻りの高い開放性と眺望を実現した。



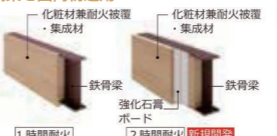
ロングスパンに対応できる断面拡大の認定取得

耐火集成材【スリム耐火ウッド柱・梁】
従来の認定部材に比べて部材断面を縮小し、空間の開放性・有効性を向上。1.2時間耐火の認定を保有。芯材及び化粧材に様々な樹種を選定でき、構造・意匠の自由度を向上。



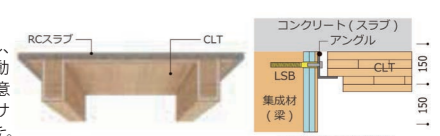
中高層ビルに対応する2時間耐火木鋼梁を国内初適用

耐火木鋼梁【ハイウッドビーム】
鉄骨梁と木材を組み合わせたハイブリッド部材。集成材が火災時に炭化して断熱層を形成、鉄骨の耐力低下を防止。耐火被覆兼化粧材となる木材が意匠性の高い木質空間を実現。



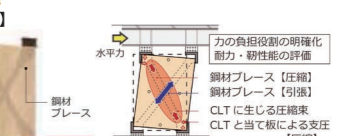
施工性を考慮した納まりを改良

CLT合成床【ハイウッドスラブ】
CLTを型枠兼化粧材として利用し、施工合理化を図るとともに音振動性能・耐火性能を向上しながら意匠性に優れた木質空間を実現。サポートレス工法を開発し、実現した。



耐震要素の木質化に対応する耐震壁を新規開発

CLTハイブリッド耐震壁【ハイウッドウォール】
圧縮に強い木材（CLT）と引張に強い鋼材を組み合わせ、高い耐力と変形性能に優れた耐震要素を開発。入手が容易な部材で構成することで、中高層建築の木質化推進に寄与。



4. 都心での合理的な施工計画

都市での木質化普及の一例として、施工性にも考慮し、特殊なディテールを避け、現場ではボルトの締付けやドリフトピンの打込みなど従来の熟練職人でも組み上げられる計画とした。



受賞概要・講評

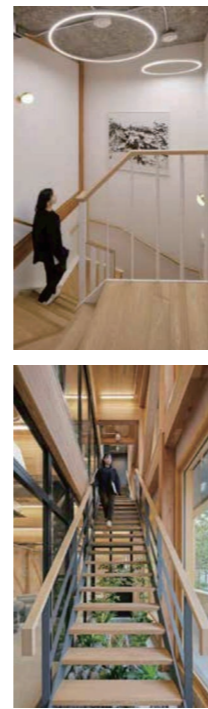
中央区京橋に所在する混構造12階建ての賃貸テナントビル。耐火集成材等を使用し、845 m²の木質無柱空間を創出しているほか、外構・構造等にも木材を活用し、全体で約1,100 m³の国産木材を使用している。

【女性活躍賞】

日本で最も高い木造ハイブリッドオフィスという革新的で難易度の高い課題について、設計（建築・設備）、開発、現業の各部門の女性社員がリーダーシップを発揮し、高度な専門性と技術力、困難に立ち向かう強い意志をもって、プロジェクトを成功へと導いた。女性活躍賞については、「個々の能力が連動し、一大プロジェクトを成し遂げた点」が評価された。

【奨励賞】

本作品は、「様々な最新技術を活用し、大スパンの梁で木質大空間を実現した総合力の高さ」「天井の木の意匠により、夜間景観としてPR効果が高い点」等が評価された。



03 | オフィス木質化賞ならびに奨励賞

EBINAXCITE

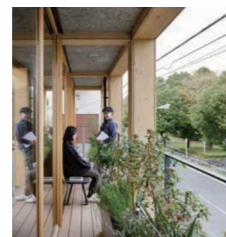
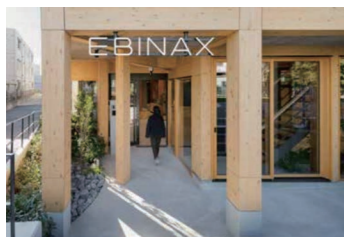
受賞者 施主：EBINAX 株式会社 / 設計者：プラナス株式会社 / 施工者：サンユー建設株式会社

チャレンジ・信頼性・未来を象徴する、都市と共鳴する“木のフレームワーク”

「メッキメーカーが木造社屋をつくる」一見すると結びつかないこのプロジェクト。そこには、施主 EBINAX がこの先に描く、新しいものづくりへの姿勢が込められている。

あえて木で建てることは、企業としてのチャレンジの旗印。端正な四角のフレームは、技術と信頼性を表現している。そして、木の表面に撥水や防火といった処理を重ねることは、表面処理で素材に新たな意味を与える、社会や環境に向けた企業の応答でもある。

EBINAXCITE というこの建築は、住工近接の地域や自然と響き合いながら、EBINAX の“チャレンジ・信頼・未来”を育てていくひとつのフレームワーク（象徴）である。



新社屋「EBINAXCITE」は、企業のこれからを象徴する拠点として計画された。木造を選択した理由は、環境配慮や話題性ではなく、“異なる素材を受け入れ、表面処理によって性能を拡張する”という企業の挑戦の姿勢を建築で表現する為である。外装や構造に採用された木材の表面には液体ガラスや準防火塗料を施し、「表面処理で素材の性質を変える」という EBINAX の専門性を建築として表現している。

内部は、展示・会議・イベント・開発など多様な機能を備えている。関係企業との交流や、学生や外部技術者への育成支援も行う、開かれた拠点である。また、住宅地化が進む地域において、木質の外装や植栽、照明計画によって周囲との親和性を高めた。施工は大田区内の企業により実現され、地域の中規模木造建築の知見蓄積にも貢献している。「EBINAXCITE」という名称は、企業名「EBINAX」と“excite”を組み合わせた造語であり、ワクワクするような“新たなものづくりの起点”になることへの願いが込められている。企業の未来や地域との関係性を象徴する建築として、今後も EBINAX の挑戦と共に育っていく拠点を目標としている。

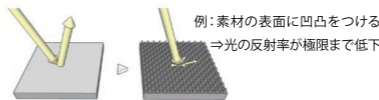
1. 単なる“めっき”から“表面処理”という複合領域へ 町工場のイメージを更新する「木造のイノベーションセンター」

プロジェクトの目的

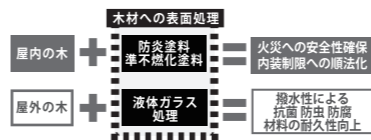


2. EBINAX の技術や伝統技術の漆に着想を得た“表面処理”で成立する木造

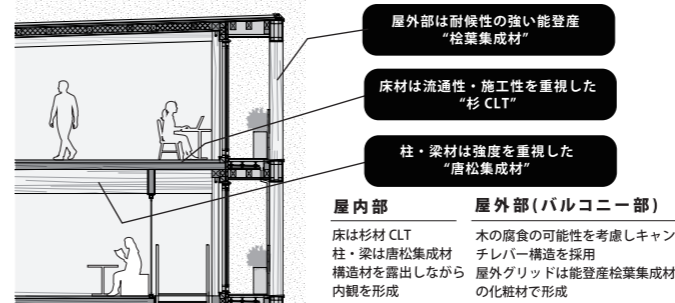
表面処理とは
表面処理とはある素材の表面に対して処理を行うことにより素材そのものの性質を変えてしまう技術。



表面処理の適用

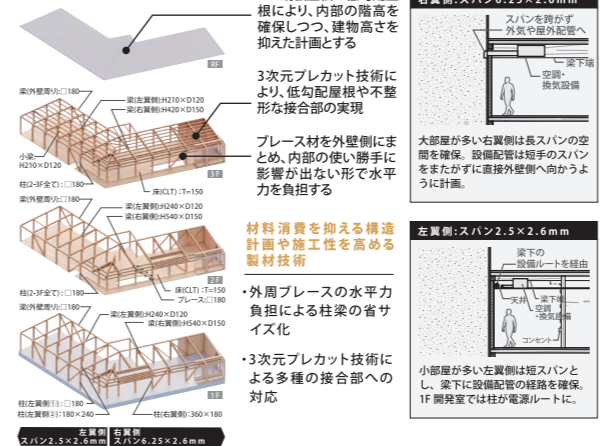


適材適所の樹種選定

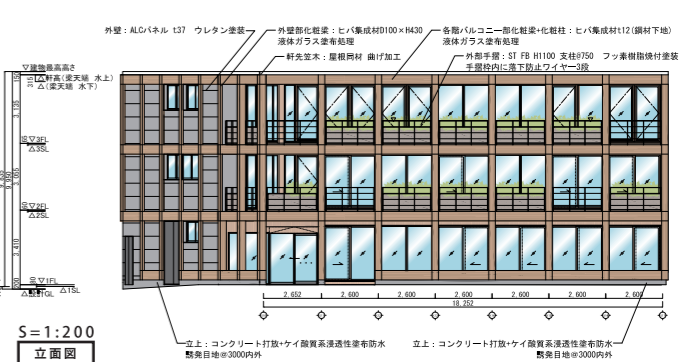
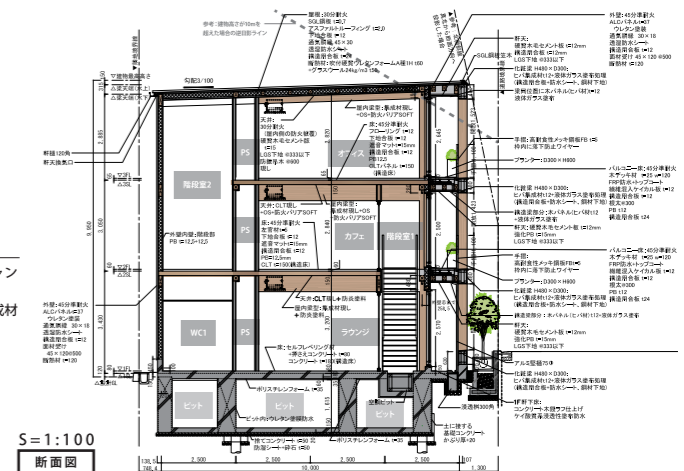
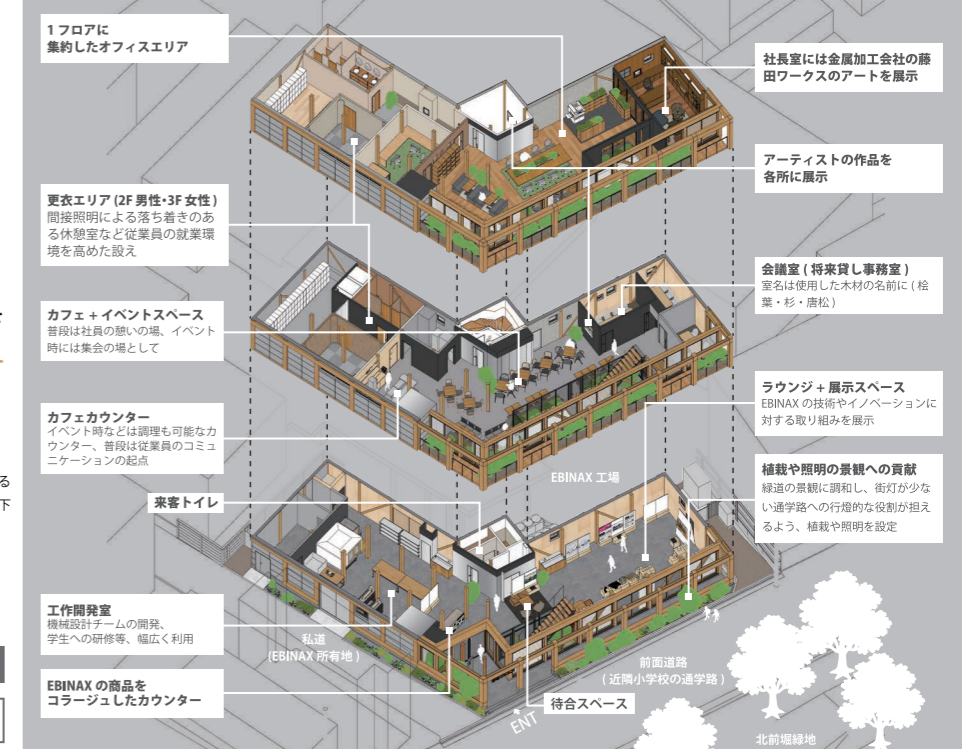


3. 内部の利用方法や設備ルートに合わせ、スパンを変化させた木構造

構造の構成



フロア構成



受賞概要・講評

大田区に所在する表面処理加工メーカーの純木造3階建ての社屋。自社技術を活用した表面処理を施すことで、外装や構造材をあらわしの意匠として用いている。

【オフィス木質化賞】

本作品については、「リラックス効果だけでなく、オンオフの切り替えができるオフィスを意図して木質化されている点」「自社の新たな取組を用いて、オフィス環境の改善を試みている点」等が評価された。

【奨励賞】

本作品は、「自社の専門領域に通じる表面処理技術により、雨ざらしになる屋外にも、あらわしの意匠として木材を活用している点」「都市景観の木質化を牽引するデザイン」等が評価された。



©Kenya Chiba



©Yoshiyuki Chiba



©Kenya Chiba

04 | 奨励賞

OS melia

受賞者 施主：大島ビルディング株式会社 / 設計者：株式会社ブルースタジオ / 施工者：株式会社礎コラム

「まちの」大家による小規模木造オフィスビル普及モデル

本計画は、都心に数多く存在する築古の小規模非住宅建築物の建替えにおいて、耐火木造建築を現実的な選択肢とすることを目的とした、汎用的かつローコストな普及モデルの構築を目指すものである。現在、都内 2,000 m²未満の事務所用建築物の約 8 割がバブル期以前に建てられ、個人や小規模法人による所有が大半を占めている。これらの建物は老朽化が進み、都市基盤の更新が求められる中、資産価値や地域価値の低下を招く「雑居ビル化」が進行している。

非住宅用途における都市木造の導入は、都市の脱炭素化に資する重要な手段だが、現状では大手ゼネコンやディベロッパーによる独自工法・認定技術が主流であり、導入コストが高く、小規模ビルオーナーにとって現実的な選択肢とはなり得ていない。そこで本プロジェクトでは、まちの個人オーナー、中小規模の建築設計事務所、工務店といった主体でも計画・施工が可能な標準工法による木造耐火建築物の開発に取り組んだ。

都心商業地に多く見られる、間口が狭く奥行の深い敷地条件や、施工上の制約を前提にした設計としつつも、特殊部材を用いず、汎用性の高い接合金物や製造可能な部材断面を活用することで、誰もが模倣可能な実現性の高い構法を構築している。また、木造建築に共感し、比較的高い賃料を許容できるテナントとのマッチングを視野に入れることで、採算性も担保している。

背景 1:
都市の木造化・森化を目指す大規模プロジェクト

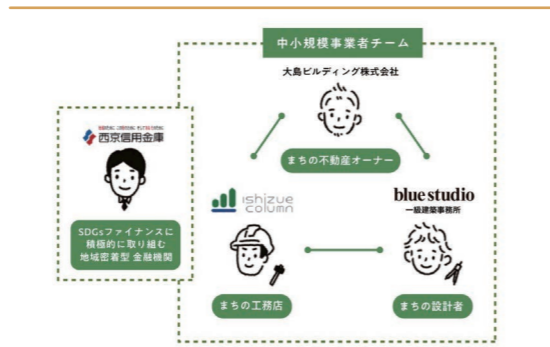
都心部では、大規模の都市木造プロジェクトが次々と生まれ、都市の「森化」はすでに始まっている。

背景 2:
『コンクリートジャングル』= 都心の 7 割を占める築古の中小オフィスビル群

都内にある事務所用建物の約 7 割は、2000 m²以下の中小オフィスビルである。そして、その 8 割がバブル期以前に建てられたもので、大半が個人や小規模法人が所有（= まちの大家）している。

「都市を森に変える」ビジョンでは、中小ビルによって形成された街並みを森に変えていく必要が求められる。

1. 「まちの大家」によるまちのプロチーム編成



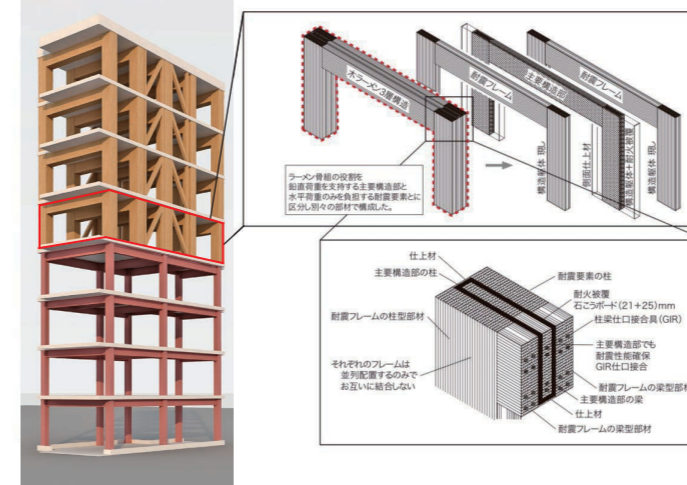
特別な技術を持たない「まちの大家・まちの建築家・まちの工務店」によるチームで、誰もが模倣可能な普及モデルを構築した。

2. 間口が狭い都心中小ビルのための木造普及モデル「間口部一方向ラーメン」の奥行展開

都心商業地域の「間口が狭く奥行きが深い」敷地特性に着目し、『延床面積 1000 m²未満・間口 10m 以下・高さ 31m 未満』の確立を目指した。

小規模木造普及モデル

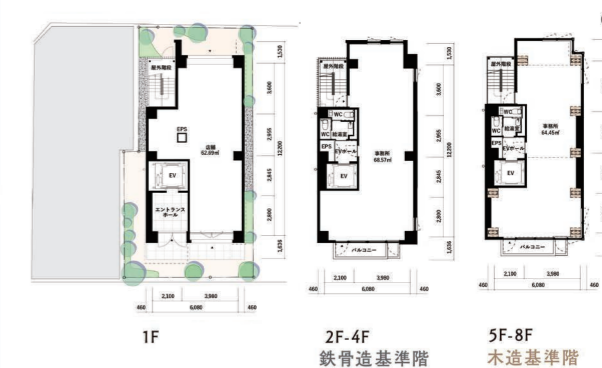
木ラーメン 3 層構造



個別の耐火認定部材に依存しない構造モデルの構築

ラーメン骨組の役割を鉛直荷重を支持する主要構造部と、水系荷重のみを負担する耐震要素とに区分し、別々の部材で構成した。

平面計画



構造

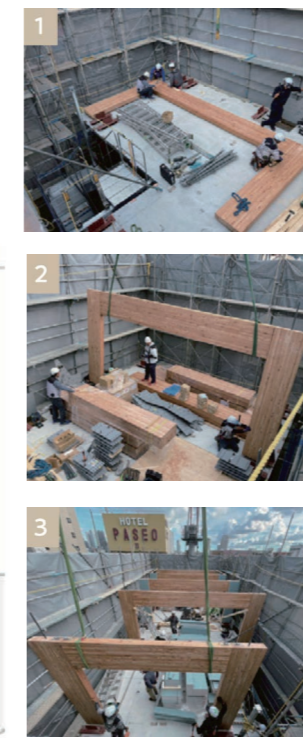
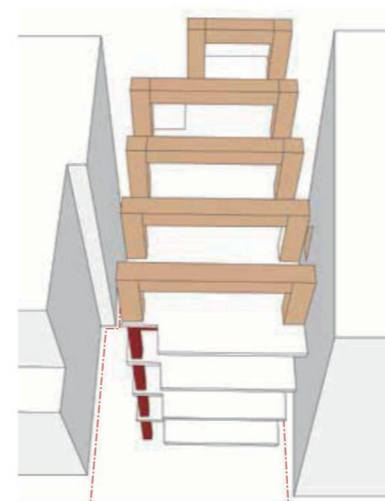
5-8 階：木質構造
(短手方向：ラーメン構造、長手方向：耐震壁構造)
1時間耐火構造

1-4 階：鉄骨ラーメン構造
2時間耐火構造

長屋型の敷地において、通りに面する間口は大きな開口部を確保。木構造を 3.6m 間隔で配置し、広がりのある空間を実現した。

3. 両側隣地境界の敷地における木質構造の建て方

隣地境界からの施工が不可能なことを前提に、間口側からタワークレーンで奥行方向に部材を搬入し、木ラーメン 3 層構造を骨組みごとに建て起こした。



©Kenya Chiba

受賞概要・講評

東中野駅前の商業地域における築古の小規模ビル。個人などが所有する小規模ビルの建替えにあたり、中小規模の設計事務所や工務店が施工可能で、汎用的かつローコストな耐火木造建築の工法を開発、採用している。

本作品は、「まちのチームで木造化に取り組んだ意欲的な作品である点」「圧倒的多数を占める小規模オーナーでも実現可能な木造ビルの汎用モデルの開発に取り組んでいる点」等が評価された。



©川澄・小林研二写真事務所

05 | 奨励賞

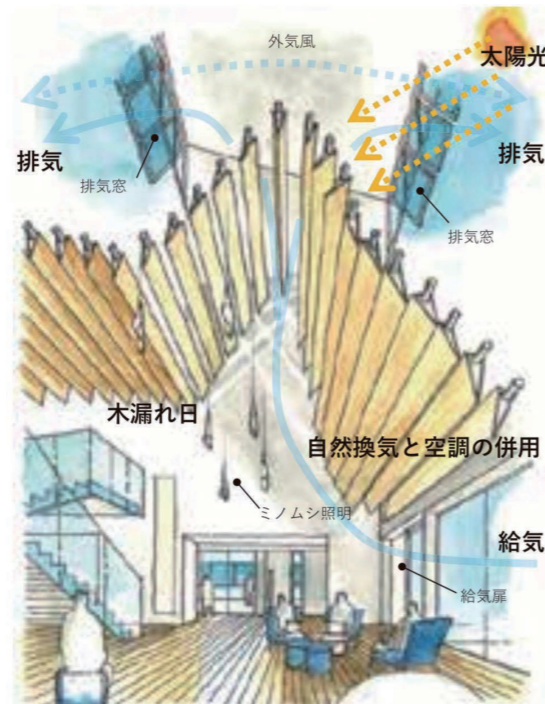
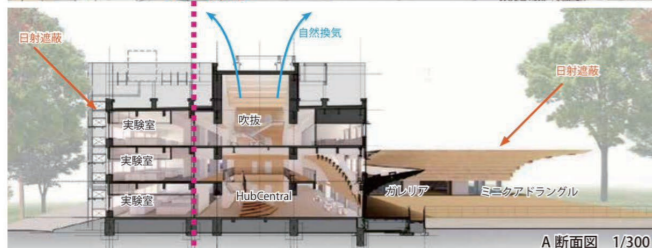
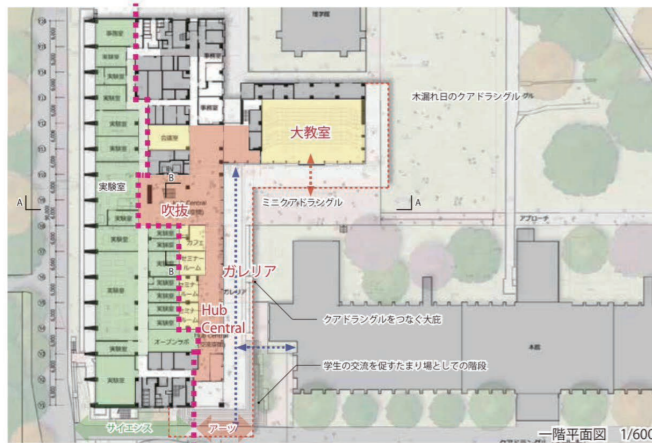
国際基督教大学 トロイヤー記念アーツ・サイエンス館

受賞者 設計者：株式会社日本設計 / 設計者：株式会社隈研吾建築都市設計事務所

木ピースによってインテグレートしたデザイン

異なる分野を探究する学生や教員が交流し、アーツ・サイエンスを体現する学びの場として、人文・社会・自然科学を横断する実験室や学際的な研究室・教室・ラウンジ HUB CENTRAL（以下 HUB）などを隣接させ、それらを結ぶ木材の一片一片「木ピース」によって知の融合を促す交流空間を創出した。

大庇の軒天を覆う木ピースは、ガレリアを介してクアドラングル（広場）と周囲の建物を緩やかにつなぎ、日射遮蔽にも寄与する。さらに大教室には吸音性をもつ有孔木パネルを、HUB にはカウンター状の木パネルを設え、活動に呼応する多様な交流の場を創出している。



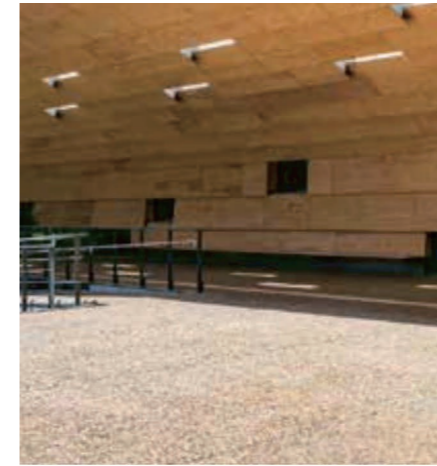
B 断面

吹抜には木ピースで構成した木製ルーバーを設け、光と風を導きながら入れ子状の吹抜で各階ラウンジを結んだ。ルーバーは三角ユニットを丸パイプにバンド固定することで自在な角度で設置可能とし、木漏れ日のような空間を実現した。さらにガレリアと一体的にデザインすることで交流の場を広げ、自然換気と空調を組み合わせたハイブリッド空調により快適性を確保している。

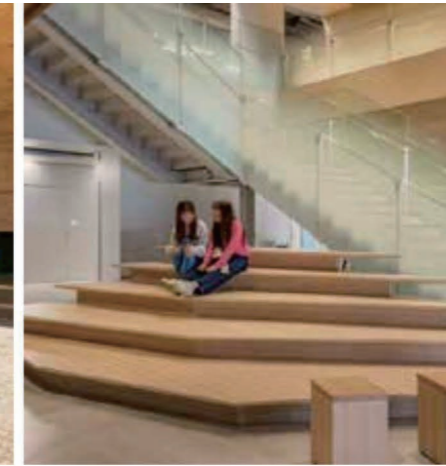
家具やサイン・ガレリアの床仕上げには敷地内で伐採した樹木を再利用し、持続可能性にも配慮した。

木ピースは、コストや施工性も考慮した同一サイズとし、庇やルーバー、内装、家具に用いることで屋内外を連続したデザインとし、日射遮蔽・自然換気・採光・吸音・間接照明など多様な課題の解決に寄与している。

伐採樹木を再利用した外構・家具・サイン



木チップ舗装



段状の家具



案内板サイン

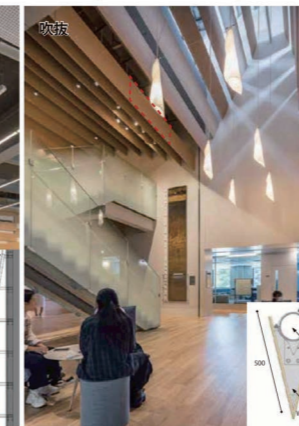
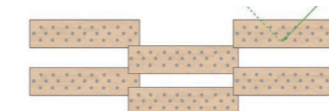
多様な木ピースのかたち

吸音機能を持つ有孔木パネル

自然採光・自然換気を可能にする木ルーバー

間接照明を仕込んだ日射遮蔽のための木の洞窟

カウンター・デスクライトが仕込んだ木パネル



受賞概要・講評

三鷹市に所在する大学内施設。軒天等と内装を「木ピース」で結び、屋内外を連続したデザインとするとともに、「木ピース」を同一サイズとすることでコストや施工性、換気・採光など多様な課題を解決している。

本作品は、「同一の木ピースの組み合わせによる創意工夫で、多彩なデザインを表現している点」「太陽光を取り入れられるデザインとするなど環境面でも配慮されている点」等が評価された。



©川澄・小林研二写真事務所

06 | 奨励賞

品川区立第四日野小学校

受賞者 設計者：株式会社あい設計東京支社

距離が縮まる学校計画

改築前の校舎はL字の片廊下型プランで構成され、桜並木で有名なかむろ坂通りに背を向けるように配置されていた。新校舎は中央階段を中心とした口の字型でプランを構成し、中央階段や光庭を介して異学年や先生の様子を垣間見られる「視線を通して人々が繋がる校舎」をコンセプトに設計した。かむろ坂通り沿いには体育館や多目的室を積層し、桜並木を様々な高さから観察できるよう工夫している。コンパクトな校舎と行き止まりのないプランとすることで、第四日野小でしか体験できない豊かな学び舎を目指した。

都市型小学校における内装木質化

コンパクトな校舎を実現するために4階に教室を配置した影響で、内装制限が必要となった。これにより木質化へのハードルが高まったが、白樺レス技術による不燃化やサイン・家具の木材活用を図り、都内でも木の校舎を体感できるよう工夫した。

既存樹の再生・再利用

建て替え予定位置に干渉していた既存樹を再利用し、サインや内装材に再生した。開校から紡いできた100年分の思い出を手の届く場所にデザインした。

居ながら改築事業を活かした参加型の学校づくり

計3期(約7年)にわたり同一敷地内で建設と解体を繰り返す状況を活かし、木を教材にした参加型ワークショップや授業を開催した。子どもたちが新しい学校や建築・建設業界に対し、より期待を膨らませてもらえるようソフト面でも工夫している。



- 1: 駅前都市部に建つ5階建ての小学校
- 2: 広々とした木質のエントランスホール
- 3: 正門から続く木の温かみのあるピロティ
- 4: 集中力を高める普通教室の黒板面木質化
- 5: 磁石と画紙掲示を両立する OSB ボードと St-PL による廊下掲壁画面
- 6: 休み時間の活動場所となる低学年テラス
- 7: 既存樹を再生した中央階段とメッセージウォール
- 8: 学校を中心とするメディアセンター
- 9: メディアセンターと一体化する和室
- 10: 木製家具を配した図工室
- 11: 木製吸音壁で設えた音楽室
- 12: かむろ坂通りの桜並木を一望できるアリーナ
- 13: 地域活動の拠点となる多目的室 A・B
- 14: ランチ利用や集会等1学年が集まる多目的室 C
- 15: 地域活動を継承する屋上菜園

参加型の学校づくり①: ソメイヨシノの芽継ぎ

設計期間に日本花の会協力の元、中学年と地域関係者を対象として芽継ぎのワークショップを行い、シンボルツリーの継承を図った。成功した苗木は新校舎の外構に植樹予定。(R8年実施予定)



参加型の学校づくり②: 環境教材としての既存樹木再生・再利用

設計時に樹木診断を行い、再生可能な範囲を製材化して新校舎のサインや内装材に活用した。メディアセンターと繋がる中央階段では、偉人の名言を先生方が選出し、再生した製材に印字することで、本(図書室)と言葉の関連性を高めている。



参加型の学校づくり③: 新校舎特別授業と建設現場見学会

工事期間中に高学年を対象とした設計・建設に関する出前授業と現場見学会を開催し、新校舎の設計主旨や建物の作り方、既存樹の再利用等(学校のどこにあった木が新しい校舎のどこに使われているか)建築を学ぶ機会を創出した。



受賞概要・講評

品川区内の小学校校舎。内装のほか、サインや家具も合わせて木質化し、都市部においても木の校舎を体感できるよう工夫されている。また、木を教材にした授業などの木育が行われている。本作品は、「7年間の居ながら改築を活かし、工事そのものを教材とした参加型の授業等の取組を行っている点」「既存樹木の再生・再利用による学校の歴史と環境の教育」等が評価された。

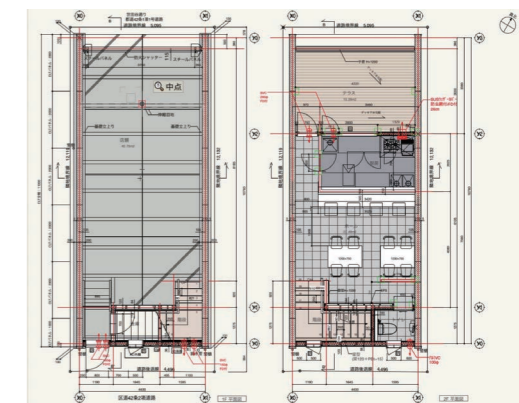
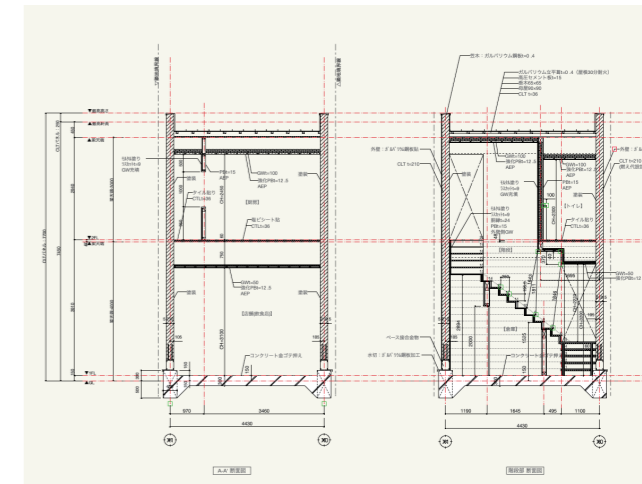
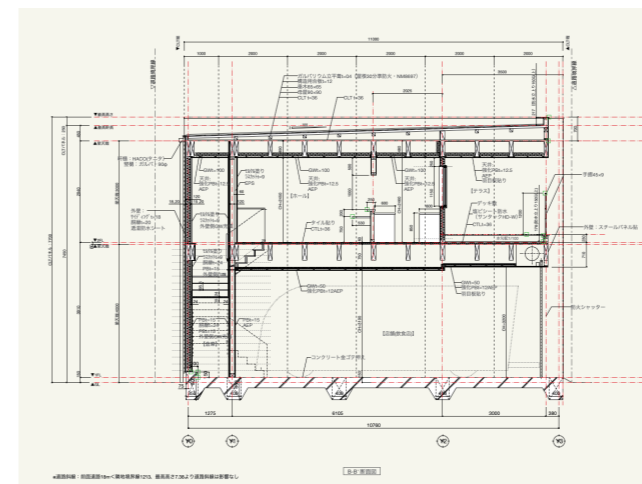
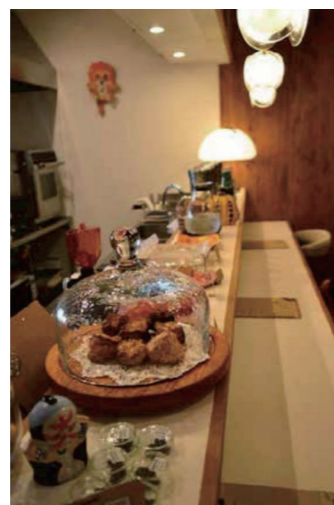
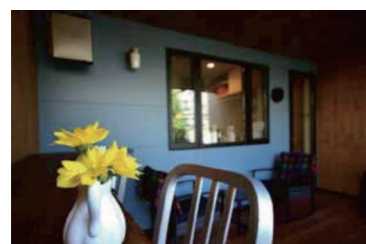


©KEN TAKAYANAGI

07 | Kahvi Coffee

受賞者 設計者・施工者：株式会社エー・ディーアンドシー

東京の世田谷通り沿いの狭小地に、CLTを使用した柱のない木造建築を行った事例。（※CLT：ひき板を層ごとに直交させた木質構造用の大型パネル）国内初となるCLT建築の新工法「LC-gate 構法（プロトタイプ）」を日本CLT技術研究所、構造計画研究所、設計者の三社で共同開発した。構造は木造だが、ファサードには Daytonahouse の鉄骨 LGS パネルや金物を使用し木と鉄のハイブリッドなデザインにまとめた。1階には47年式スバルタン社のピンテージトレイラーがディスプレイされており、トレイラーを横目に2階に上がると北欧デザインのインナーテラス付き cafe となり内装もハイブリッドな Garage & Cafe の空間となっている。



この建物のY軸方向は2階までの高さ7.5m、幅2.0m、厚み21cm、重さ2.5トンのパネルが7枚で構成されており、この新工法用に開発した金物と集成梁とが結合されている構造となっている。外壁のガルバリウム鋼板は岡山の工場ですきに貼り合わせ、内装はCLTあらわしの仕上げになっている。

このパネルを足場を使わずレッカーと高所作業車で建て込んだ。事前に岡山の工場で敷地を借り、レッカーでの仮組み立てをしたり、BIMにて建て方のシミュレーションを行った。



都内狭小地であること、前面が2車線の都道で電線の高さが3.5m程のため、BIMの施工シミュレーションで何度も搬入や建て方を検証したり、職人さんと何度も打ち合わせを重ねた。



□ 技術概要

- 構造：X方向CLT薄肉ラーメン構造、Y方向CLT壁式構造
- 壁 CLT210mm スギヒノキ5層7プライ
- 床 CLT36mm スギ
- CLT使用量 38 m³
- 木材使用率 0.399 m³ / m²

受賞概要・講評

世田谷通り沿いの狭小地に所在する木造2階建ての飲食店。国内初となるCLT建築の新工法「LC-gate 構法（プロトタイプ）」を用いた柱のない構造で、木と鉄のハイブリッドなデザインとなっている。本作品は、「外部足場が不要で、施工時間が短時間で済む点」「都市の狭小地において魅力的な工法である点」等が評価された。

令和7年度

ウッドシティ TOKYO 建築賞

受賞作品 所在地情報

TOKYO



受賞作品 / 所在地情報

作品関連サイト



最優秀賞

01 | 武蔵五日市駅前拠点施設
「フレア五日市」

〒190-0166
東京都あきる野市館谷台 26-1



あきる野市 HP
<https://www.city.akiruno.tokyo.jp/kanko/0000018064.html>



株式会社アルセッド建築研究所 HP
<https://www.alsed.co.jp/work/2090/>

P.3



女性活躍賞
奨励賞

02 | 第一生命京橋キノテラス

〒104-0031
東京都中央区京橋 2-4-12



第一生命保険株式会社 HP
https://www.dai-ichi-life.co.jp/company/news/pdf/2025_016.pdf



清水建設株式会社 HP
<https://www.shimz.co.jp/mokushitsu/project/case006.html>

P.5



オフィス木質化賞
奨励賞

03 | EBINAXCITE

〒144-0033
東京都大田区東糞谷 5-22-13



EBINAX HP
<https://ebinadk.com/>



プランナ株式会社 HP
<https://planus.co.jp/projects/ebinaxcite/>

P.7



奨励賞

04 | OS melia

〒164-0003
東京都中野区東中野 1-55-4



株式会社ブルースタジオ HP
<https://bluestudio.jp/portfolio/po014290.html>

P.9



奨励賞

05 | 国際基督教大学
トロイヤー記念アーツ・サイエンス館

〒181-8585
東京都三鷹市大沢 3-10-2

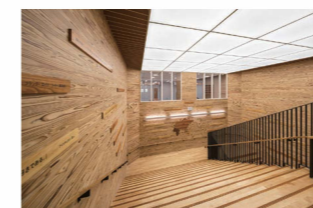


株式会社日本設計 HP
<https://www.nihonsekkei.co.jp/>



隈研吾建築都市設計事務所 HP
<https://kkaa.co.jp/project/icu-troyer-memorial-arts-and-sciences-hall/>

P.11



奨励賞

06 | 品川区立第四日野小学校

〒141-0031
東京都品川区西五反田 4-29-9



株式会社あい設計 HP
<https://www.aisekkei.co.jp/>

P.13



奨励賞

07 | Kahvi Coffee

〒154-0011
東京都世田谷区上馬 5-40-14



株式会社エー・ディーアンドシー HP
<https://www.adandc.jp/>

P.15

※受賞作品掲載の図面の縮尺について
一部の図面中にある縮尺表記は受賞者から提供された図面原本によるものです。図面原本を本誌のサイズに合わせて縮小などをおこなっているため、紙面上の縮尺は正確ではありません。

令和7年度

ウッドシティ TOKYO 建築賞 モデル

受賞作品集

協 力

あきる野市

株式会社アルセッド建築研究所

株式会社来住野工務店

第一生命保険株式会社

清水建設株式会社

清水建設・日本建設共同企業体

EBINAX 株式会社

プラナス株式会社

サンユー建設株式会社

大島ビルディング株式会社

株式会社ブルースタジオ

株式会社礎コラム

株式会社日本設計

株式会社隈研吾建築都市設計事務所

株式会社あい設計東京支社

株式会社エー・ディーアンドシー

(掲載順)

発 行

令和8年3月

発 行 者

東京都 産業労働局 農林水産部 森林課
東京都新宿区西新宿 2-8-1
TEL. 03-5320-4855

制 作

株式会社シャフト